

2025年度永年勤続25年表彰について

2025年10月15日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、10月14日に、東京都立川市において、永年勤続25年表彰の表彰式を下記のとおり開催しましたので、お知らせいたします。

記

1. 日 時 2025年10月14日（火） 11:30～11:50
2. 場 所 ホテル日航立川（東京都立川市）
3. 受賞者 13名

渡辺郁夫理事長が表彰式で受賞者に表彰状を手渡した後、永年勤続の労をねぎらうとともに、今後の活躍を期待するとのあいさつがありました。理事長のあいさつを受け、受賞者を代表して浮上式鉄道技術研究部 磁気浮上研究室長 田中実が答辞を述べました。

【理事長あいさつ要約】

永年勤続25年表彰の受賞、おめでとうございます。皆さんは鉄道総研において、それぞれの業務に尽力され、多くの成果を挙げてこられました。皆さんのこれまでの尽力に心より敬意を表するとともに、皆さんの活動を支えてこられたご家族の方々にも感謝いたします。

皆さんが入社された2000年（平成12年）は、世紀末、ミレニアムという言葉で語られた時期であり、この年の4月には、鉄道総研

の基本計画 RESEARCH21 がスタートしました。「21世紀の鉄道技術の創造を目指す」ことが謳われた本計画では、研究開発の柱となる「鉄道の将来に向けた研究開発」「実用的な技術開発」「鉄道の基礎研究」の3つの枠組みができました。特に鉄道の将来に向けた研究開発では、長期的な展望に基づき、鉄道総研が果たすべき役割が改めて明確になりました。

それから25年が経ち、日本の鉄道を取り巻く環境は大きく変化しています。生産年齢人口の減少、自然災害の激甚化、脱炭素社会への対応など、鉄道が抱える課題は解決が急がれる状況にあります。こうした課題を乗り越え、持続可能な鉄道を構築する最大のカギは「技術」にあり、安全性の向上、デジタル技術による業務革新、脱炭素化に向けた研究開発などに、全力で取り組む必要があります。



表彰状を手渡す渡辺理事長と受け取る受賞者

そのためには、25年にわたり鉄道総研において力を培い、いろいろな分野で活躍してきた皆さんの力が必要です。この節目の年を、これまでの歩みを振り返るとともに、新たな気持ちで再スタートする機会としていただきたいと思います。そして、次世代の育成にも積極的に関わっていただけることを期待しています。

皆さんのこれまでのご尽力に改めて感謝申し上げますとともに、今後のさらなるご活躍と、ご家族を含めた皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。本日は誠にありがとうございます。



あいさつする渡辺理事長

【受賞者代表答辞要約】

本日は、私ども13名に永年勤続25年表彰を賜り、誠にありがとうございました。また、渡辺理事長より心温まるお言葉を頂戴し、重ねて感謝の意を申し上げます。

私どもが、鉄道総研の職員として本日を迎えられたのは、役員・上司・先輩の皆様のご指導、同僚・後輩の皆様のご支援、そして家族の支えがあつてのことと、深く感謝いたします。

この25年間で、鉄道総研は公益財団法人へと移行し、鉄道技術は大きく進化しました。鉄道総研は、革新的な技術を創出し、その存在感を示してきましたが、私どもも、車両、構造物、電力、軌道、情報通信、材料、環境、浮上式など幅広い分野に従事し、鉄道総研のプレゼンス向上に努めてまいりました。

一方、自然災害の激甚化、生産年齢人口の減少、カーボンニュートラルの実現など、鉄道を取り巻く課題は増しています。鉄道総研は、基礎研究から応用開発までを担い、ICT活用や脱炭素化、安全性向上に取り組むとともに、事故・災害の原因究明や標準化への貢献も、私たちの重要な役割です。

2025年度からは新たな中期計画「RESEARCH2030」が始まりました。私どもは、これまで培った専門性と分野横断的な総合力を発揮し、持続可能な鉄道システムの創造に取り組んでゆく所存です。

本日の永年勤続25年表彰を機に、同期の絆を大切にするとともに、鉄道総研の一層の発展と社会への貢献に向けて、今後も業務に精励することを誓い、御礼の言葉とさせていただきます。



答辞を述べる田中実 磁気浮上研究室長